

## 平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

「開発創造、和衷敬愛、質実剛健」の建学の精神のもとに「生徒の望む進路を実現する学校」をめざしていく。

育てたい生徒像：(開発創造)自分で創意工夫でき、(和衷敬愛)おだやかで思いやりをもって人に接することができ、(質実剛健)自分を律し社会に貢献でき、  
勇気を持って新しいことに取り組もうとする生徒を育てる。

重点課題：自分の頭で考え、自分の言葉で表現する力の育成

## 2 中期的目標

## 1 生徒の学力を高め、進路を保障

## (1) 学習における自律精神の育成

## ア 規範意識を高め、挑戦する心の育成

授業遅刻の減少 (H31:2800、2020:2700、2021:2600) (H30:2894)、生徒指導の徹底 (化粧、標準服のスカート丈の重点指導)

教育相談等サポートの充実 (SSW の配置、ケース会議の適宜開催)

## イ 学習意欲の向上と継続した学習の推進

「総合的な探求の時間」の充実 (思考力、表現力の向上)

進路指導の充実 (進路マニュアルの改訂とそれに沿った統一的な指導、成績データベースを基にした成績個票を使った個人面談の実施)

授業アンケート「1 生徒取組」(授業内容について必要な予習や復習ができている)の学校平均を H31:2.80、2020:2.81、2021:2.82 にする  
(H30:2.79)

同じく「5 教材活用」(先生は教科書その他、役に立つプリントなどをうまく使っている)の学校平均を H31:3.10、2020:3.11、2021:3.12 にする  
(H30:3.09)

## (2) 国際交流の推進

## ア 多様性を理解し、コミュニケーションの機会を増加させる

自己表現力の向上のため、文化祭、体育祭、学校説明会等での発表機会を増やす

修学旅行、福祉体験、ふち留学 (地域の国際関連施設との交流) 等体験学習の充実

## イ 国際交流を通して刺激を受け学習意欲を高める

在校生の国際交流：韓国、台湾、ニュージーランドの姉妹校への語学研修派遣、及び、姉妹校の受け入れによる相互交流

ニュージーランドと台湾の姉妹校との交換留学を継続する

台湾姉妹校との本校の 60 周年行事を通じた交流を進める

卒業生の国際交流：台湾、ニュージーランドの姉妹校に卒業生を日本語アシスタントとして派遣

英語アシスタントの受け入れ：ニュージーランドから卒業生を英語のアシスタントとして受け入れる

英検受験者を H31:195 人、2020:200 人、2021:205 人にする (H30:192 人)

第 2 外国語としての中国語、韓国・朝鮮語の資格試験受験者の増加

地域の国際関連施設と語学を通じた連携を進める

学校教育自己診断 (生徒)「国際交流を行う機会が多い」を H31:98%、2020:98%、2021:98%にする (H30:97%)

## (3) 進路保障の充実

## ア 希望進路の実現をめざした学力の育成

コースを基本原則としたクラス編成の実施

進路実現に向けた計画的な講習や学力生活実態調査結果の分析会の実施

アジア太平洋コース選択者の増加

## イ 国公立関関同立産近甲龍への現役合格者数を H31:50 人、2020:53 人、2021:55 人にする (H30:46 人)

教員同士の授業力向上研修の継続実施

学校教育自己診断 (生徒)「学校の授業・講習で進路志望達成に必要な学力がつく」を H31:68%、2020:69%、2021:70% にする (H30:67%)

同じく「コース選択や進路について先生に相談が十分にでき、情報も十分に与えてくれている」を H31:73%、2020:74%、2021:75% にする  
(H30:72%)

スタディマラソン (夏期) での卒業生の協力 (学習支援、講話等) の充実

## 2 自分の頭で考え、自分の言葉で表現する力を高め、充実した学校生活

## (1) 生徒会活動、部活動の活性化

## ア 生徒会執行部の育成

管理職との情報交換会を年 3 回実施し、生徒会から聞いた要望の実現をめざす

学校教育自己診断 (生徒)「生徒会活動は活発である」を H31:81%、2020:82%、2020:83%にする (H30:80%)

## イ 部活動の更なる充実

学校教育自己診断 (生徒)「部活動は活発である」を H31:85%、2020:86%、2020:87%にする (H30:84%)

## (2) 体験活動の重視

## ア 生徒の達成感の向上をはかり、自尊感情 自律心 共生の精神を育む

中学校等や近隣施設との交流推進

学校教育自己診断 (生徒)「授業や部活動、学校行事などを通して他の学校や幼稚園・保育園などと交流することがある」を H31:38%、2020:39%、  
2021:40%にする (H30:37%)

学校行事の充実

学校教育自己診断 (生徒)「文化祭は楽しく行えるように工夫されている」を H31:78%、2020:79%、2021:80%にする (H30:77%)

学校教育自己診断 (生徒)「体育祭は楽しく行えるように工夫されている」を H31:75%、2020:76%、2021:77%にする (H30:74%)

<p>3 教員の指導力を高め、良き教育環境作り</p> <p>(1)教員の生徒一人ひとりへの対応力の育成</p> <p>ア 授業力の向上(観点別シラバスに沿った、わかりやすい授業をめざす)</p> <p>校内授業見学会・校外授業研修の参加者増加、小中高への視察者増加</p> <p>学力生活実態調査の結果を分析し授業に活かす(学力生活実態調査事業者も入った分析会を学年対象と教科対象の2部構成で実施)</p> <p>学校教育自己診断(生徒)「教え方に工夫があり、わかりやすい授業が多い」を H31:47%、2020:48%、2021:49%にする(H30:46%)</p> <p>授業アンケート「8・9授業に関する生徒の意識」(8授業内容に、興味 関心を持つことができたと感じている、9授業を受けて、知識や技能が身に付いたと感じている。)の学校平均を H31:2.98、2020:2.99、2021:3.00 にする(H30:2.97)</p> <p>イ ICTを利用した授業、グループ学習、発表(伝える)能力育成をめざす授業の推進</p> <p>ICTを利用した授業の増加</p> <p>学校教育自己診断(生徒)「コンピュータやプロジェクターを活用している授業がある」を H31:75%、2020:76%、2021:77%にする(H30:74%)</p> <p>授業アンケート「6授業展開」(先生の声や話し方は聞き取りやすく、わかりやすい)を H31:3.12、2020:3.13、2021:3.14 にする(H30:3.11)</p> <p>(2)教職員が相互理解を深め信頼関係を高める</p> <p>ア 情報共有の場としての拡大学年会議の実施</p> <p>イ 人権教育推進委員会、及び教育相談委員会の充実(いじめの未然防止と早期発見、ケース会議の適宜開催)</p> <p>ウ 総括職員会議の充実(総括・目標達成の検証・計画の改善を行う)</p> <p>エ 学習環境を整えるための統一した生活指導の推進</p> <p>学校教育自己診断(教職員)「教職員間の相互理解が十分になされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている」を H31:40%、2020:50%、2021:60%にする(H30:38%)</p> <p>オ 安全衛生委員会の充実(「働き方改革」への取組み強化)</p> <p>(3)校舎等修繕の計画的な実施</p> <p>学校教育自己診断(生徒)「学校の施設や設備などは清掃など環境整備がいきとどいており気持ちよく生活できる」を H31:40%、2020:45%、2021:50%にする(H30:36%)</p>
<p>4 保護者・地域との関係強化</p> <p>(1)保護者・地域との連携を深める</p> <p>ア 国際交流事業への保護者や地域の方の参加及び協力を求め続ける</p> <p>イ 防災訓練等地域連携行事への参加と協力を進める</p> <p>ウ 地域の小・中・高・支援学校及び大学との交流を進める</p> <p>エ 自転車マナー指導・避難所訓練や文化祭バザー・クリーンキャンペーンを地域やPTAと連携して進める</p> <p>(2)学校情報の更なる発信</p> <p>ア 学校ホームページを使った情報発信を強化する</p> <p>イ メールマガジンの発行を継続する</p> <p>ウ 学校説明会で生徒が活躍する場面の充実</p> <p>学校で実施する学校説明会の参加者を増加する(H31:1440人、2020:1450人、2021:1460人)(H30:1430人)</p>

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和元年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>(授業関連)</p> <p>肯定率 生徒 64% 教職員 70% 保護者 65%</p> <p>特に、生徒のICT関連の肯定率は75%と高く、授業見学を実施した際も若手教員のみならず、ベテラン教員もICTを活用していたことは評価できると考える。さらに、ビデオやPCの機器の整備充実を図っていききたい。</p> <p>(進路関連)</p> <p>肯定率 生徒 75% 教職員 77% 保護者 69%</p> <p>学校の進路指導は一定評価いただいているが、近年、大学入試定員の厳格化の影響があり、より一層早い時期からの進学指導の充実を図っていききたい。</p> <p>(人権教育関連)</p> <p>肯定率 生徒 74% 教職員 76% 保護者 69%</p> <p>いじめ未然防止委員会の定期的な開催をはじめ、生徒の人権を尊重した教育を心掛け、生徒が安全で安心できる学校であるように今後も人権教育を推進していきたい。</p>	<p>第1回(R17/5)</p> <p>学校のホームページをスマートフォンからも閲覧できるようにしたことについて、発信した情報を知ってくださる方が増える可能性があることに評価いただいた。</p> <p>遅刻が減少している理由について質問があり、朝の登校指導だけでなく、放課後の遅刻指導の内容を変えたことであると答えた。(指導の内容とは、具体的には、単に反省文を書かせるだけでなく、遅刻がどれほど本人や周りの生徒に良くない影響を与えるかを繰り返し指導し、生活習慣を改めさせるように導いたこと)</p> <p>全HRにスクリーンが設置されたので、より一層ICTを活用するようにとの提言をいただいた。</p> <p>第2回(R19/7)</p> <p>授業力向上のために、授業力向上プロジェクトを立ち上げたり、授業アンケートを活用し、教員相互の授業見学を推し進めたりしていることに評価いただいた。</p> <p>新標準服の候補について説明し賛成を得られた。</p> <p>文化祭当日であり、生徒たちの元気な様子をご覧いただいた。</p> <p>第3回(R21/18)</p> <p>進学実績を高めるためにも、学校経営計画に書かれているような教員の意識向上が大切であるとのこと提言をいただいた。</p> <p>委員でもある保護者の方からは、阪南高校で思いやりや頑張る気力、人とかかわる力などを子どもにつけてもらって感謝しているとお褒めのお言葉をいただいた。</p> <p>令和2年度の学校経営計画について学校運営協議会の全委員からご承認をいただいた。</p>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 生徒の学力を高め、進路を保障	<p>(1) 学習における自律精神の育成</p> <p>ア 規範意識を高め、挑戦する心の育成</p> <p>イ 学習意欲の向上と継続した学習の推進</p> <p>(2) 生徒参加型の国際交流</p> <p>イ 国際交流を通して、グローバルな視点から生き方を学び、積極的な人生をめざす</p> <p>(3) 進路保障の充実</p> <p>ア 希望進路の実現をめざした学力の育成</p> <p>イ 国公立関関同立産近甲龍への現役合格者数の増加</p>	<p>(1)</p> <p>ア・教育相談等サポートの充実(SSWの配置、ケース会議の適宜開催)</p> <p>イ・将来構想委員会による「受けることが楽しい授業」を増やす取組みを継続する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新カリキュラム編成委員会で選択科目設定の検討を行う</li> <li>・進路マニュアルの改訂とそれに沿った統一的な指導を実施する</li> <li>・成績データベースを基にした成績個票を使った個人面談を実施する</li> </ul> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交流受け入れ時における本校生徒と外国生徒の交流時間の増加を図る</li> <li>・国際交流の事前説明会と事後報告会の事前周知を充実させる</li> <li>・新入生及び在校生の保護者へ外国生徒のホームステイ家庭としての協力をアピールする</li> </ul> <p>(3)</p> <p>ア・1年次・2年次のコース選択オリエンテーションで全担任が同じ内容を同じトーンで伝えられるよう事前の学習会を充実する</p> <p>イ・進路指導部主導で3年間を見通した講習計画を作成するとともに、共通の教材を使用する</p>	<p>(1)</p> <p>ア・学校教育自己診断(教職員)「様々な問題行動防止のための早期対応・指導に学校全体で心がける体制になっている」を58%以上にする(H30:57%)</p> <p>イ・授業アンケート「1生徒取組」(授業内容について、必要な予習や復習ができていた)の学校平均を2.80以上にする(H30:2.79)</p> <p>・授業アンケート「5教材活用」(先生は教科書の他、役に立つプリントなどをうまく使っている)の学校平均を3.10以上にする(H30:3.09)</p> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育自己診断(生徒)「国際交流を行う機会が多い」を90%以上にする(H30:97%)</li> <li>・3カ国への語学研修希望者をH30より増やす(H30:39人)</li> <li>・ホームステイ引受家庭数をH30より増やす(H30:29家庭)</li> </ul> <p>(3)</p> <p>ア・学校教育自己診断(生徒)「コース選択や進路について先生に相談が十分でき、情報も十分与えてくれている」を73%以上にする(H30:72%)</p> <p>イ・学校教育自己診断(生徒)「学校の授業・講習で進路志望達成に必要な学力がつく」を68%以上にする(H30:67%)</p>	<p>(1)</p> <p>ア・学校教育自己診断(教職員)「様々な問題行動防止のための早期対応・指導に学校全体で心がける体制になっている」は64%であり、学校が生徒の居場所となるために、教職員は取り組んでいる。( )</p> <p>イ・授業アンケート「1生徒取組」(授業内容について、必要な予習や復習ができていた)は2.80。生徒は学ぶ意識を持っている。( )</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業アンケート「5教材活用」(先生は教科書の他、役に立つプリントなどをうまく使っている)は3.14。教員は授業力向上している。( )</li> </ul> <p>(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育自己診断(生徒)「国際交流を行う機会が多い」は94%( )</li> <li>・3カ国への語学研修希望者40人( )</li> <li>・ホストファミリーは20家庭であった。( )</li> </ul> <p>(3)</p> <p>ア・学校教育自己診断(生徒)「コース選択や進路について先生に相談が十分でき、情報も十分与えてくれている」は75%( )</p> <p>イ・学校教育自己診断(生徒)「学校の授業・講習で進路志望達成に必要な学力がつく」は62%( )</p>
2 生徒の活力を高め充実した学校生活	<p>(1) 生徒会活動、部活動の活性化</p> <p>ア 生徒会執行部の育成</p> <p>イ 部活動のさらなる充実</p> <p>(2) 体験活動の重視</p> <p>ア 学校や施設との交流の推進</p> <p>イ 学校行事の充実</p>	<p>(1)</p> <p>ア・文化祭でのクラスやクラブの企画において「成果発表」の要素がより濃くなるための方策を生徒会執行部が作り上げるよう支援する</p> <p>イ・中学生が参加できるクラブ体験機会を増やし、入学後の入部につなげる</p> <p>(2)</p> <p>ア・部活動や生徒会執行部での他校生との交流機会を増やすとともに、幼稚園・保育園や国際関連施設との交流を引き続き進める</p> <p>イ・生徒の思いや考えを生徒会執行部を中心に察知して、みんなで作り上げる文化祭・体育祭となるよう指導及び支援に力を入れる</p>	<p>(1)</p> <p>ア・学校教育自己診断(生徒)「生徒会活動が活発」を81%以上にする(H30:80%)</p> <p>イ・学校教育自己診断(生徒)「部活動が活発」を85%以上にする(H30:84%)</p> <p>(2)</p> <p>ア・学校教育自己診断(生徒)「授業や部活動、学校行事などを通して他の学校や幼稚園・保育園などと交流することがある」38%以上にする(H30:37%)</p> <p>イ・学校教育自己診断(生徒)「文化祭は楽しく行えるように工夫されている」を78%以上にする(H30:77%)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育自己診断(生徒)「体育祭は楽しく行えるように工夫されている」75%以上にする(H30:74%)</li> </ul>	<p>(1)</p> <p>ア・学校教育自己診断(生徒)「生徒会活動が活発」について、標準服の刷新や学園の森の改修、さらに学校説明会などに積極的に取り組んだことが全生徒に浸透していなかった。76%( )</p> <p>イ・学校教育自己診断(生徒)「部活動が活発」について、教員の働き方改革も視野に入れつつ、学習と部活動を両立させていく。80%( )</p> <p>(2)</p> <p>ア・学校教育自己診断(生徒)「授業や部活動、学校行事などを通して他の学校や幼稚園・保育園などと交流することがある」は29%( )</p> <p>イ・学校教育自己診断(生徒)「文化祭は楽しく行えるように工夫されている」「体育祭は楽しく行えるように工夫されている」は学校行事において、規律の中の自由をしっかりと意識させることを求めた。それぞれ62%と57%( )</p>

<p>3 教員の指導力を高め良き教育環境作り</p>	<p>(1) 教員の生徒一人ひとりへの対応力の育成 ア 授業力の向上 イ ICT を利用した授業 (2) 教職員が相互理解を深め信頼関係を構築 ア 情報共有の場としての拡大学年会議の実施 イ 人権教育推進委員会の充実(いじめの未然防止と早期発見に一層取り組む) ウ 総括職員会議の充実 エ 安全衛生委員会の充実(「働き方改革」への取り組み強化) (3) 校舎等修繕の計画的な実施</p>	<p>(1) ア・校内授業見学会とその後の研究協議、校外授業研修、小中高への視察、これらの参加を勧める ・学力生活実態調査の分析会を担任対象と教科対象の2部構成にする ・授業アンケート結果を元にした教科での分析会の定期実施  イ・ICTを使った授業の発表会の1学期での実施  (2) ア・拡大学年会議を定期開催する ・担任会での生徒の思いや考えの共有に努める  イ・3年間を見据えた人権教育計画の策定し、学期に1回は人権学習HRを実施する。そのうちの1回はSNSを使ったいじめを未然防止するためのHRとする ウ・年間総括、目標達成の検証、計画の改善を行う  エ・「働き方改革」の具体的な取り組みを実施  (3) 教職員等による点検を定期的実施し必要な修繕を行う</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断(生徒)「わかりやすい授業が多い」を47%以上にする(H30:46%) ・校内授業見学会の見学件数をH30より増やす(H30:15件) ・校外での授業研修の参加者をH30より増やす(H30:9人) ・小学校及び中学校への視察人数をH30より増やす(H30:9人) ・授業アンケート「8・9授業に関する生徒の意識」(8授業内容に、興味・関心を持つことができたと感じている、9授業を受けて、知識や技能が身に付いたと感じている。)の学校平均を2.98以上にする(H30:2.97) イ・学校教育自己診断(生徒)「コンピュータやプロジェクターを活用している授業がある」を75%以上にする(H30:74%) (2) ア・学校教育自己診断(教職員)「教職員間の相互理解が十分になされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている」を39%以上にする(H30:38%) イ・SNSを使ったいじめを未然防止するためのLHRを各学年で年1回実施し、人権だよりで保護者に知らせる ウ・学校教育自己診断(教職員)「教科として、積極的に教科目標・指導内容・進度等について点検・検討する機会を持ち、生徒の実態を踏まえ、常に指導方法・評価方法の工夫・改善を行っている」を61%以上にする(H30:60%) エ・分掌で行っている定例業務の見直し又は効率化を行う (3) 学校教育自己診断(生徒)「学校の施設や設備などは清掃など環境整備がいきとどいており気持ちよく生活できる」を37%以上にする(H30:36%)</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断(生徒)「わかりやすい授業が多い」は48%( ) ・校内授業見学会の見学件数41件( ) ・校外での授業研修の参加者及び、小学校及び中学校への視察人数27人( ) ・授業アンケート「8・9授業に関する生徒の意識」は3.05( )  イ・学校教育自己診断(生徒)「コンピュータやプロジェクターを活用している授業がある」は75%( ) (2) ア・学校教育自己診断(教職員)「教職員間の相互理解が十分になされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている」は49%( ) イ・SNSを使ったいじめを未然防止するためのLHRを各学年で実施し、人権だよりでも保護者に知らせ、人権意識の醸成を図った( ) ウ・学校教育自己診断(教職員)「教科として、積極的に教科目標・指導内容・進度等について点検・検討する機会を持ち、生徒の実態を踏まえ、常に指導方法・評価方法の工夫・改善を行っている」は70%( ) エ・分掌の改編を実施し、遅刻指導のあり方、大学指定校推薦の基準等も見直し、それに日直の廃止も行い、教職員の働き方改革を実施した( ) (3) 学校教育自己診断(生徒)「学校の施設や設備などは清掃など環境整備がいきとどいており気持ちよく生活できる」は42%であり、学園の森の改修や60周年記念事業としての環境整備により、校内環境は改善された( )</p>
--------------------------------	---	--	---	---

## 府立阪南高等学校

<p>4 保護者・地域力との関係強化</p>	<p>4 (1)保護者・地域との連携を深める ア 国際交流事業への保護者や地域の方の参加及び協力を求め続ける イ 地域連携行事への参加と協力を進める ウ 地域の小学校・中学校、及び、近隣の大学との交流を進める エ 自転車マナー指導・避難所訓練や文化祭バザー・クリーンキャンペーンを地域やPTAと連携して進める (2)学校情報の更なる発信 ア 学校ホームページを使った情報発信を強化する イ 学校説明会で生徒が活躍する場面の充実</p>	<p>(1) ア・英語講座、韓国語講座を継続する  イ・近隣の国際関連施設との交流(阪南プチ留学)を年2回実施する ウ・地元の小中支援学校にニュージーランドの姉妹校から来たネイティブを派遣する  エ・早朝自転車マナー指導を4月、8月の学期初めと5回の考査期間中に行う  (2) ア・校長ブログの継続 ・ホームページとメルマガ阪南を使った災害時等での情報発信の強化  イ・学校説明会で生徒による案内、演奏(校歌紹介等)司会、説明を実施する</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断(保護者)「PTA活動は活発である」を68%以上にする(H30:67%)  イ・阪南プチ留学の参加者をH30より増やす(H30:17人) ウ・派遣日数をH30より増やす(H30:28日)  エ・近隣から苦情をいただかないようにする  (2) ア・校長ブログの月4回以上の更新  イ・学校説明会への参加者をH30より増やす(H30:1430人)</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断(保護者)「阪南高校に入学させてよかった」の肯定率94% ・学校教育自己診断(保護者)「PTA活動は活発である」は69%( ) イ・阪南プチ留学の参加者18名( ) ウ・NZの姉妹校から来たネイティブ教員の派遣日数は30日。帰国の際のお別れ会には、派遣校等の教職員の方々も出席され、別れを惜しんでおられた( ) エ・校長自らほぼ毎朝校門に立ち、生徒と挨拶を交わし、登校指導も実施している。地域自治会の会長とは、その時に顔を会わせることが多く、連携に努めており、地域とは良好な関係を続けている。また、赴任してすぐ、近隣の中学校も訪問して、関係づくりに努め、地域へのフィールドワークにも参加して理解を深めた。近隣からの苦情もなかった( )  (2) ア・校長ブログだけに偏らず、メルマガ阪南なども活用し、さらに行事などに関しては、各担当者にブログを掲載させ、各々に当事者意識を持たせるようにした( ) イ・学校説明会は今年度3回(昨年度は4回)に減らして実施。1255人参加( )</p>
----------------------------	---	--	--	---